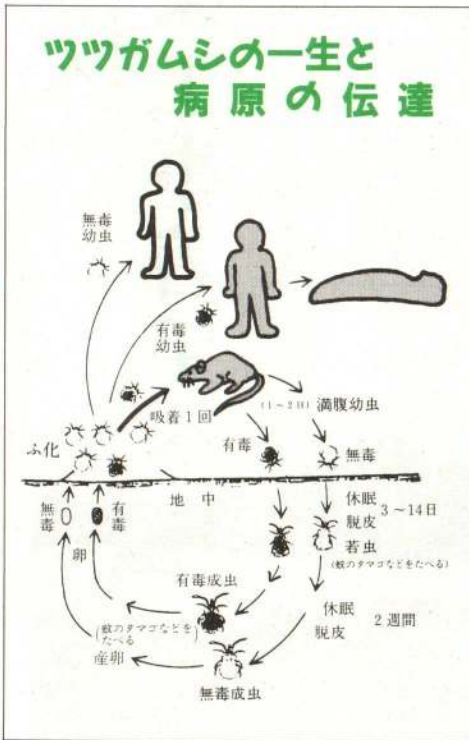


ツツガムシ病

野山に出たらご注意を

ツツガムシの一生と病原の伝達



原因と病原体

ツツガムシ病患者が急増しています。ツツガムシ病は、例年桜の咲くころから入梅のころまでに最も多く発生しますが、今年に入ってから大館でツツガムシ病と確認された患者はすでに七人（六月五日現在）。このなかには生後六カ月の男の子も含まれています。農作業や山菜とりに出かけて刺されるケースが一般的ですが、衣服などに付着して家庭へ運ばれるツツガムシが原因となることもあります。

ツツガムシはダニの一種で、日本にだけでも八十を超える種類がいます。しかし、ツツガムシ病の原因となるのはアカツツガムシとフトカゲツツガムシ、タテツツガムシの三種類だけです。この三種類でも病原体である「リケッチア」を持っている割合は、わずかに千分の一から五百分の一といわれています。

ツツガムシは成虫になる過程で、一度だけ温血動物から栄養を吸い取ります。その対象となる動物の多くは野ネズミですが、ごく一部のツツガムシが人間の皮膚から出ている炭酸ガスを目標に吸着します。それがたまたま、リケッチアを持っているツツガムシであれば、ツツガムシ病になるわけです。古くから雄物川や信濃川、阿賀野川流域などで風土病とまでいわれたツツガムシ病は、ア

カツツガムシが主な原因でした。アカツツガムシは真夏に卵からかえるため、発症もこの時期に多くみられます。

しかし、最近のツツガムシ病の原因は主にフトカゲツツガムシ。県内のいたる所に生息しています。卵からかえるのは秋で、ふ化に適した暖かい気候なら秋のうちに温血動物に吸着し、そうでなければ春を待って活動します。また、タテツツガムシは西日本に多くみられて、県内にはいないようです。

いずれのツツガムシの幼虫も○・二から○・三ぐらいの大きさですから、肉眼ではなかなか見ることができません。

刺されたときの症状

アカツツガムシに刺されたときは痛みを感じますが、他のツツガムシに刺されたときはほとんど感じません。どのツツガムシも刺し口はほとんど一カ所であり、好む傾向があります。陰部やわきの下などを刺されているケースが多くみられます。

刺し口は二、三日後には発赤し、五日後ぐらいには水ぶくれとなり、十日後ぐらいにはかさぶたになります。

刺された一週間ぐらいたると、全身のだるさ、食欲低下、頭痛、

ツツガムシ病患者発生状況

年度	大館市	秋田県	大館の割合
62	3	36	8.3%
63	3	32	9.4%
元	3	28	10.7%
2	4	41	9.8%
3	7	47	14.9%

※3年度は6月5日現在

ツツガムシ病の予防

ツツガムシ病を予防する絶対的な手段は今のところありません。大切なことは刺されないように注意することです。

- ①野山に出かけるときは、次のことに気をつけましょう。
 - ①できるだけ皮膚を露出しないようにし、長ぐつやゴム手袋を着用する。
 - ②帰宅後は必ず入浴し、衣類を取り替える。
 - ③脱いだ衣類は部屋に持ち込まないで、洗濯か日光消毒する。ツツガムシ病かどうかは、検査をしなければわかりません。ちよつとでもおかしいと思ったら、すみやかに医師に相談し、治療を受けるようしてください。